

投稿規定

(2022年4月1日改訂・施行)

1. 投稿資格

原稿の投稿者は社会言語科学学会の会員でなければならない。共著の場合は、筆頭著者が会員であればよい。なお、編集委員会が原稿を依頼する場合は、この限りでない。投稿者は、論文の投稿から採否が決定するまで社会言語科学学会の会員でなければならない。退会した時点で投稿資格を失う。それにともない、査読も打ち切られる。

2. 投稿原稿

投稿原稿は研究倫理を遵守して作成されていることを前提とし、以下の規定に従うこと。

2.1 投稿原稿の種類(論文ジャンル)

- ・投稿原稿の種類は研究論文、展望論文、資料、ショートノートとする。
 - a. 研究論文 —— 独創性のある実証的または理論的な論文
 - b. 展望論文 —— 重要な課題に関する国内外の諸研究を幅広く検討し、独自の観点から総合的に概観する論文
 - c. 資料 —— 言語資料、実験・調査の結果などの報告で、従来の学説の吟味検討や今後の研究展開に資することを目的とするもの
 - d. ショートノート —— 萌芽的な問題の指摘、興味深い観察や少数事例に関する報告など、優れた研究につながる可能性のある内容、研究装置や研究方法に関する指摘・提案など
- ・原稿の種類は著者が投稿時に指定する。ただし、判定結果に基づき、編集委員会が審査途中で著者に種類の変更を求めることがある。
- ・編集委員会は、上記の種類の前稿のほか、巻頭言、寄稿、書評、報告などの執筆を会員に依頼することがある。

2.2 投稿原稿の内容

- ・投稿内容は未公開のものに限る。投稿者と同一の著者により既に公刊されている論文と内容の重複が多く、新規性が認められない投稿は受理されないことがある。
- ・本誌または他の学術誌に掲載済み・投稿中の原稿と同じ内容で投稿すること(二重投稿)は認めない。ただし学会での口頭発表ないしその内容をまとめた発表論文集等に掲載された原稿、科学研究費補助金などの研究報告書に掲載された原稿、公刊されていない修士論文や博士論文の一部は投稿して差し支えない。なお、機関リポジトリなどウェブ上で公開されているだけの博士論文は未公開のものとして扱う。
- ・既に投稿した原稿が審査中の場合でも、同一の筆頭者による他の原稿を並行して投稿することは妨げない。ただし、後から投稿された原稿の査読には、通常よりも時間がかかることがある。
- ・捏造、改ざん、盗用、剽窃、不適切なデータ収集等を行わないこと。詳細は「執筆に際しての留意点」を参照すること。
- ・原稿には、誹謗・中傷や、特定の団体、教材、商品、サービスなどの宣伝を含めないこと。
- ・図やイラスト、写真などの掲載に際して著作権・肖像権に関する処理が必要な場合は、執筆者自身が行うこととする。

3. 投稿と査読

- ・投稿は随時受け付ける。ただし特集の前稿に関しては受付の期限を定める。
- ・執筆に際し、「執筆に際しての留意点」を参照すること。
- ・投稿においては、社会言語科学学会ウェブサイト上の最新版の「投稿規定」「執筆要項」「投稿の手順」「投稿チェックリスト」に従っていることを「誓約書」にて申し出ることとする。特に、「投稿規定」への違反が発覚した場合には、厳粛な対応措置がとられることがある。
- ・依頼原稿も含め、投稿原稿はすべて編集委員会が主体となって査読・編集を行い、掲載の可否を決定する。決定に異議がある場合、投稿者は、編集委員会に対して異議申立てを行うことができる。

- ・投稿して審査中の原稿と同一内容で、口頭発表することは望ましくない。

4. 掲載原稿の取り扱い

- ・掲載される原稿の原稿料は支払わない。
- ・掲載原稿の執筆者には、1編につき抜刷20部を無料で進呈する。
- ・掲載原稿の印刷に要する費用は、原則として本学会の負担とする。ただし、特殊な活字、図版の作成等により特別な費用がかかるときには、その費用は投稿者の負担とする。
- ・掲載された論文等に関する国内外の著作権は、原則として本学会に帰属する。本学会は掲載原稿を電子化または複製の形態などで公開・配布する権利を有するものとする。
- ・掲載原稿の執筆者は、掲載された論文等を機関リポジトリや個人のウェブサイト、書籍で公開することができる。ただし、原則として、学会誌刊行後2年間は公開できないものとする。転載を希望する者は、『社会言語科学』編集事務局(jass-edit@bunken.co.jp)に問い合わせ、「転載許可願」を提出すること。

執筆要項

(2022年4月1日改訂・施行)

1. 投稿原稿の書式・分量

- ・原稿本文は日本語または英語で書くこととする。表題と要旨とキーワードは日本語と英語の両方とする。
- ・母語・非母語に関わらず、投稿前に、自身や他者による入念な推敲を行うことを推奨する。
- ・執筆言語が母語でない場合は、専門的な知識を有する母語話者等のチェックを受けること。
- ・原稿は縦置き横書きとする。句読点は「. , 」とする。
- ・原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」(日本語用 Word ファイル, 英語用 Word ファイル, 日本語用 LaTeX ファイル)を使い、その説明に従って書く。
- ・投稿原稿の分量は、研究論文は本文のほか表題、著者名・所属、和文要旨・英文要旨、参考文献、注、表、図等を含め、「投稿原稿テンプレート」の書式(23字×2段×40行設定)で16ページ以内とする。展望論文は同じく16ページ以内を、ショートノートは8ページ以内とする。その他の原稿については簡潔を旨とし、研究論文の基準を上回らないものとする。和文要旨は600字以内、英文要旨は200語以内とする。
- ・査読結果によって加筆修正が必要になった場合でも、原稿の分量は上記のとおりとする。そのため、投稿時の原稿の分量は規定より少なめにしておくのが望ましい。
- ・誌面はモノクロ印刷になるので、提出原稿は図表を含め、すべてモノクロにする。グラフなどはモノクロでも見やすいように工夫すること。どうしてもカラー印刷にする必要があるときは、著者の費用負担によりカラー印刷を認めることがある。
- ・図表は本文中の適当な個所に入れること。図表中の文字は8ポイント以上にする。
- ・本文のなかで章・節等の記号をつける場合には、章は1., 2., ……、第1章第1節は1.1のようにし、以下これに準ずることとして、本文中でも章・節等を参照する場合も1.1のようにする。
- ・本文中の外国人名等の固有名詞は、原綴りあるいは英語綴りを原則とするが、公式の名称等として著名なものはカタカナでもよい。
- ・注は、必要最小限にとどめる。入れる場合は論文の末尾に入れる「末尾注」とし、脚注は用いない。

2. 外国語表記

- ・原稿本文、並びに例文において、ラテン文字、簡体字・繁体字、ハングル、キリル文字以外の特殊文字はローマ字化する。その際、当該言語における慣習的なローマ字表記法を採用する。なお、簡体字・繁体字、ハングル、キリル文字についても、必要に応じて、ローマ字表記法(ピンイン表記など)を併記してもよい。
- ・英語論文の本文、並びに例文における日本語のローマ字化には、訓令式、または、ヘボン式を一貫して用いる。なお、長音については、母音字の上に横棒(マクロン)を付すか、同じ母音を続けて書く表記を一貫して用いる(例:kenkyū, kenkyuu(研究))。ただし、人名については慣例、または本人の表記に従う。

3. 引用

本文中で引用をする際、以下の基準に従うようにする。

- ・単著文献を引用する際、以下のように著者の姓と発行年を表記する。

柴田 (1978)によれば....., Holmes (2017) によれば...

...である (柴田, 1978)., ...という (Holmes, 2017).

Tagliamonte (2012) investigated..., ...was examined (Tsuji-mura, 2013)

- ・共著文献を引用する際、著者が2人の場合は、両方の著者名を表記する。著者が3人以上の場合は、筆頭著者のみを示し、その後「ほか」(英文の場合は et al.)をつける。なお、参考文献では全ての著者名を示す。

安田・海野 (1977) によれば...

Okamoto & Shibamoto-Smith (2016)によれば...

Okamoto & Shibamoto-Smith (2016) conducted...

- ・直接引用には原文のページ数を明記する。間接引用にはページ数は明記しなくてもよい

安田・海野 (1977:35) は、「～」と述べている。

「～」(Spitzberg & Cupach, 1984:22-23) と言われる。

- ・一つの引用箇所複数の引用文献を併記する場合、刊行年の古いものの順に以下のように配列する。

～を指摘した (柴田, 1952; 渋谷, 2006; Nakamura, 2014).

- ・翻訳書を引用する場合、(原著刊行年/翻訳刊行年)のように示す。

～を指摘した (トラッドギル, 1972/1975)

- ・第二版以降の文献を引用する際には、(再版刊行年[初版刊行年])のように示す。

～を指摘した (時枝, 2008 [1941]).

- ・同一著者、同一出版年の異なる文献を引用する際、本文中に登場する順に出版年の後に a, b のようにアルファベット順に記号を入れる。

鈴木 (1997a) 鈴木 (1997b)

4. 参考文献の書式

参考文献は、原則として以下のようにする。第一著者名のアルファベット順で、和文文献、欧文文献、その他の外国語文献を分けることなく配列する。ただし、中国語・韓国語文献などの外国語論文は言語ごとに分け、当該言語の慣習的な配列順に従ってもよい。欧文文献、その他の外国語文献は当該言語で記し、日本語に訳さなくても良い。また、同じ著者による参考文献を複数載せる場合は、刊行年の古い論文から順に並べる。また、同じ著者の単著と共著がある場合は、単著を先にする。なお、共著者が多数の場合、監修者名のみを残すなど省略してもよい。

①和文の単行本(単著、共著、編著)の場合

柴田武 (1978). 社会言語学の課題. 三省堂.

安田三郎・海野道郎 (1977). 社会統計学 改訂2版. 丸善.

橋元良明 (編) (2005). 講座社会言語科学2 メディア. ひつじ書房.

②和文の編著書中の論文の場合

竹内郁郎 (1982). 受容過程の研究. 竹内郁郎・児島和人(編) 現代マスコミュニケーション論, pp.44-79. 有斐閣.

③和文の逐次刊行物の場合

- ・「巻」で通しページの場合、または「号」「集」等の上に「巻」がない場合:

芳賀純 (1963). 日本人学生の学習した英語名詞の意味構造の比較研究. 教育心理学研究, 11, 33-42.

- ・「巻」の下に「号」等があり、「号」ごとにページが変わる場合:

渋谷勝己 (2000). 徳川学の流れー方言学から社会言語学へー. 社会言語科学, 2(2), 2-10.

④欧文の単行本(単著、共著、編著)の場合

Norricks, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*.

Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.

Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.

Dorian, Nancy C. (Ed.) (1989). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge University Press.

⑤欧文の編著書中の論文の場合

Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp.29-52. Malden, MA: Blackwell.

Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp.35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.

⑥欧文の逐次刊行物の場合

・「巻」で通しページの場合, または「号」「集」等の上に「巻」がない場合:

Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151-175.

・「巻」の下に「号」等があり, 「号」ごとにページが変わる場合:

Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50(4), 696-735.

⑦外国語による単行本(単著, 共著, 編著)の場合

陈原 (1983). 社会语言学. 学林出版社.

刘月华・潘文娉・故鞞 (2001). 实用现代汉语语法. 商务印书馆.

이익섭(1994). 사회언어학. 민음사.

박경래・곽충구・정인호・한성우・위진 (2012). 재중 동포 언어 실태 조사. 국립국어원.

⑧外国語による編著書中の論文の場合

孙宏开 (1998). 20 世纪的中国少数民族语言文字研究. 刘坚 (主编) 20 世纪的中国语言学, pp.641-682. 北京大学出版社.

정성희 (1998; 2017). 산재지구 조선족의 이중언어사용 실태 —심양시 소가툰구 성광촌의 현황—. 지광철 (編) 규범화, 이중언어연구, pp.456-461. 민족출판사.

⑨外国語による逐次刊行物の場合

・「巻」で通しページの場合, または「号」「集」等の上に「巻」がない場合:

李宇明 (2016). 语言服务与语言产业 东方翻译, 4, 4-8.

김희숙 (2007). 사회언어학과 ‘과잉교정’의 문제. 언어학연구, 11, 49-65.

・「巻」の下に「号」等があり, 「号」ごとにページが変わる場合:

徐大明 (2004). 语言社区理论 中国社会语言学 2(1), 18-28.

아라이 야스히로 (2012). 휴대전화에 있어서의 행위선택의 한일 대조 연구-대우법의 새로운 형태-. 사회언어학, 19(2), 237-259.

⑩翻訳書

Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cambridge University Press. (佐伯胖訳 (1993). 状況に埋め込まれた学習 産業図書)

⑪学会などでの発表(発表論文集などに掲載されたもの)

山田寛 (2007). 顔面表情認知における情報処理過程 社会言語科学会第 19 回大会発表論文集, 346-349.

⑫インターネット上の資料の引用(カッコ内は資料にアクセスした日)

社会言語科学会 (2004). 原稿募集のお知らせ 社会言語科学会 2004年11月8日
<<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaisi.html>> (2007年6月20日)

⑬博士論文など

Kita, Sotaro (1993). *Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics*. Doctoral Dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

⑭その他

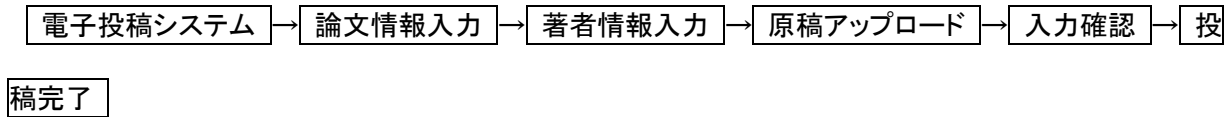
執筆要項に記載されていない点については, APA(American Psychological Association, アメリカ心理学会)マニュアル最新版(2022年1月現在, 第7版)に規定されている方式に準ずる方法を採用すること.

投稿の手順

(2022年4月1日改訂・施行)

1. 投稿方法

- ・原稿は、本学会の下記「電子投稿システム」内の新規投稿ページより投稿すること。
(<https://iap-jp.org/jass/journal/>)
2022年4月1日より新システムへ移行。
- ・投稿完了までの流れは以下のとおりである。



- ・投稿を受理すると、編集事務局は自動的に原稿受理日、論文番号などを投稿者に電子メールで通知する(返信は不要)。
- ・不明な点があれば、下記編集事務局に問い合わせること。
〒162-0801 東京都新宿区山吹町332-6
(株)国際文献社内 『社会言語科学』編集事務局
TEL: 03-6824-9363 FAX: 03-5206-5332 E-mail: jass-edit@bunken.co.jp

2. 投稿の際に必要な物

- ・投稿者は、原則として「投稿原稿テンプレート」(日本語用 Word ファイル, 英語用 Word ファイル, 日本語用 LaTeX ファイル)に従って投稿原稿を作成すること。なお、本文や注、参考文献、謝辞、付記の書き方などで著者が特定できるような場合、その部分を削除するか伏せ字にして匿名性を確保すること。
- ・投稿原稿は、PDF ファイルにして新規投稿ページより電子的に投稿すること。なお、電子投稿システム内の PDF コンバート機能を用いて、投稿原稿を PDF 化することができる。なお、個人で PDF ファイルを作成する場合は、ファイルの「プロパティ」から作成者に関連する情報を必ず消去すること。
- ・電子投稿の際には以下の論文情報が必要になる。投稿原稿から転記すること。
 - (1) 論文表題(和文・英文)
 - (2) 論文ジャンル(研究論文, 展望論文など)
 - (3) 論文種別(一般/特集)
 - (4) 特集名(特集号の場合のみ)
 - (5) 論文要旨(日本語600字以内, 英語200語以内)。
- ・著者情報入力ページには、氏名(漢字, 仮名, 英字), 所属機関(漢字, 英字), 会員番号(ID)を入力する。
- ・「投稿チェックリスト・誓約書」を提出すること。投稿者のうち少なくとも1名がこれまで本学会または他学会などで投稿・掲載した内容(または投稿中・掲載予定の内容)と類似する部分がある場合は、「類似の自己論文についての申告」の欄に、その書誌情報を記入した上で内容の異同を説明し、その論文のコピーを PDF ファイルで提出すること。

3. 査読及び刊行スケジュール

- ・原稿の査読は、担当編集委員及び2名の査読者によって行い、担当編集委員が査読者の評価を取りまとめ、編集委員会に判定結果を報告して承認を受ける。判定結果は、A(そのまま掲載可), B(修正の上, 掲載可), C(修正の上, 再審査), D(掲載不可)のいずれかとし、原稿受理日から原則として3ヶ月以内に投稿者に電子メールで通知する。
- ・判定結果に基づき、第3査読者を依頼することがある。その際は、編集委員会からの電子メールにて著者に通知する。
- ・判定結果がBまたはCの場合、査読コメントを踏まえて必要な修正を行い、所定の期間内(Bでは1ヶ月, Cでは3ヶ月)に再提出すること。
- ・本誌は年度ごとに2回、9月末と3月末に刊行する。投稿は随時受け付けているが、刊行時期の3ヶ月前までに掲載が決定しない場合は、掲載が次号以降(特集のための投稿原稿についても同様)になるので、留意されたい。

4. 掲載決定後の入稿方法

- ・掲載が決定した場合は、完成原稿を作成する。完成原稿では、最終の査読コメントへの対応のための修正を除き、内容の加除は認めない。著者名・所属と著者名ローマ字・英語の所属名を追加し、投稿原稿

- において削除または伏せ字にした著者関連情報を明示すること。謝辞を書く場合は、掲載決定後に追加すること。
- ・完成原稿は、プリントアウト原稿と電子ファイル原稿の両方の形式を用意する。なお、プリントアウト原稿は上記の編集事務局所在地宛に送り、電子ファイル原稿は編集事務局E-mailアドレスに送信する。
 - ・プリントアウト原稿は、完成原稿と同じ体裁・内容とする。但し、図・表は、本文(表題, 著者名, 和文・英文要旨, キーワードを含む)とは別にプリントアウトし、挿入希望個所をプリントアウト原稿の本文部分に指示する。
 - ・図・表は1枚の用紙に一つだけ書く。また、図と表のそれぞれに一連番号をつけ、さらに題(説明, キャプション)をつける。
 - ・図・表は、プリントアウトをそのまま利用して編集することがあるので、鮮明なものを用意する。刷り上がり大きさは編集委員会の裁量による。
 - ・電子ファイル原稿は、原則として「投稿原稿テンプレート」(日本語用Wordファイル, 英語用Wordファイル, 日本語用LaTeXファイル)に入力したファイルとする。それに加えて、図・表部分はPDFファイルまたはMicrosoft Wordファイルとして別につける。
 - ・著者校正は原則として二校までとする。校正の際の原稿への加除は認めない。

The Japanese Journal of Language in Society

Submission Guidelines (Revised and effective April 1, 2022)

1. Submission qualification

Submissions are limited to members of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences. When there is more than one author, the first author must be a member of the Association. Exceptions may be made if the editorial committee requests a manuscript. Authors must be members of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences from the time of submission until the acceptance or rejection of the manuscript. If an author cancels membership, the author's right to submit will be suspended and any review in progress will also be suspended.

2. Manuscripts

Manuscripts for submission should be prepared in accordance with research ethics and should comply with the following guidelines.

2.1 Manuscript types

- Manuscript may be research papers, research overviews, research material or short notes.
 - a. Research papers – should be original, verifiable/empirical and theoretical.
 - b. Research overviews – should include extensive examination of both Japanese and international research and provide insightful and comprehensive overviews of important issues.
 - c. Materials - reports detailing things such as linguistic material, and experiment and survey results, with the purpose of contributing to rigorous review of conventional theory and the development of future research.
 - d. Short notes - includes reports that contain content that leads to high standard research such as reports on new issues, interesting observations and reports involving a small number of case studies, as well as notes and suggestions regarding research devices and methods.
- The author should designate the manuscript type at the time of submission. However, while undergoing their review, the editorial committee may make a decision and request the author to change the manuscript type.
- The editorial committee may request members of the Association to write manuscripts other than the types outlined above, such as prefatory notes, special contributions, book reviews, or reports.

2.2 Manuscript content

- Submissions are limited to manuscripts of unpublished content. Submission of a manuscript that contains significant overlap in content with previously published work of the author and does not include new revelations will not be accepted.
- Manuscripts that have been published or have been submitted for publishing in this journal or other journals will not be accepted. However, manuscripts deriving from oral presentations or which have been included in a collection of oral presentations of a conference, papers which have been published as part of a research fund report, an unpublished Master's thesis or parts of a Doctoral thesis, may be submitted. Doctoral theses published on institutional repositories and other such forms on the Internet are considered as unpublished.
- An author may submit another manuscript while a previous manuscript is under review. In this case, it may take longer than usual for the review of the manuscript submitted later.
- Authors must not fabricate, falsify, plagiarize, or use inappropriately collected data. Please refer to the 'Notes on Writing.'
- Manuscripts should not contain slander, defamation, or advertising of any specific organization, educational material, product, or service.
- The author is responsible for obtaining permission to reproduce any diagrams, illustrations, or photographs for which they do not own the copyright.

3. Submission and review

- Manuscripts may be submitted at any time. However, deadlines may be set for special issues.

- When preparing a manuscript, please refer to the ‘Notes on Writing.’
 - When submitting manuscripts, authors are required to submit a ‘pledge’ that they have followed the latest version of the ‘Submission Guidelines,’ ‘Style Guide,’ ‘Submission Procedure,’ and the ‘Submission Checklist,’ as published on the website of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences. Strict measures may be taken for violations of the ‘Submission Guidelines.’
 - All manuscripts, including requested manuscripts, will be reviewed and edited by the editorial committee who will decide whether or not the manuscript will be accepted. If there is any objection to the editorial committee’s decision, the author may appeal to the committee.
 - We request authors to refrain from making oral presentations of the same content of a manuscript that has been submitted and is under review.
4. Handling of accepted manuscripts
- Authors will receive no payment for accepted manuscripts.
 - 20 complimentary offprints of each paper will be supplied to the author.
 - The Association is responsible for publication expenses. If special expenses are required for special typesetting or illustrations, the author will be responsible for these expenses. The Association retains the copyright of accepted papers. The Association retains the right to copy and reproduce accepted papers in both electronic and hard copy form.
 - The author(s) of the manuscript may publish the manuscript on an institutional repository, the author’s website, or as a book. However, in principle, these may not be published within two years of publication in the Journal. Authors wishing to publish in this manner should contact the Journal’s editorial office (jass-edit@bunken.co.jp) and submit a ‘Request for Permission to Reproduce.’

Style Guide (Revised and effective April 1, 2022)

1. Submission format
- Manuscripts may be submitted in either Japanese or English. The title, the abstract and the keywords must be written in both English and Japanese.
 - Regardless of whether the manuscript has been written in the author’s native language or not, we recommend that the manuscript be thoroughly refined by the author and others prior to submission.
 - Manuscripts written by non-native speakers should be corrected and edited by a qualified native speaker with expertise in the relevant area.
 - Manuscripts written in Japanese must be written horizontally and from left to right. The symbols ‘.’ and ‘;’ are to be used for punctuation.
 - In principle, authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or LaTeX file for Japanese).
 - The maximum length of the final version of a research paper written within the manuscript template (23 characters x 2 columns x 40 lines), including the main text, title, author(s) and affiliation(s), Japanese abstract, English abstract, references, notes, tables and figures, is 16 pages. The maximum length of a research overview is also 16 pages, while the maximum length of a short note is 8 pages. Other types of manuscripts should be concise, and not exceed the length of a research paper. The Japanese abstract should be no more than 600 characters, while the English abstract should be no more than 200 words.
 - Should corrections need to be made following peer review, these need to be made within the above maximum manuscript lengths. Authors are advised to allow for this when writing the initial manuscript.
 - As publication is in black and white, manuscripts, including any figures or tables, should be comprehensible in black and white. In special circumstances, printing in color may be permitted at the cost of the author.
 - Figure and tables should be inserted within the main text. Letters used in figures and tables must be at least 8 point.

- If chapters and sections within the paper are to be numbered, use 1., 2., etc. for chapters and 1.1, 1.2, etc. for sections. The same numbering is to be used when referring to chapters or sections within the text.
- Non-Japanese proper nouns, including names, cited within the main text are to be written in their original form or in English. If an official name exists in *katakana*, that name may be used.
- Notes should be kept to a minimum. Any notes should be placed at the end of the main text and not as footnotes.

2. Notation of foreign language

- Special letters or characters other than Latin letters, Chinese characters, Hangul or Cyrillic used in the text or in examples should be written in Roman alphabet. In such cases, the customary romanization should be used. In some cases, Roman notation or other forms of notation such as Pinyin may be used in addition to Chinese, Hangul or Cyrillic letters.
- Japanese included in the text or as examples in papers written in English should be notated using either Kunrei-shiki romanization or Hepburn romanization. Consistency must be maintained with the system of romanization. For example, a horizontal bar above the vowel (a macron) or two consecutive vowels may be used to indicate a long vowel (e.g., kenkyū, kenkyuu). Whichever system is used, it should be used consistently throughout the paper. When writing the names of people, the customary romanization or the person's preferred spelling may be used.

3. In-text citation

When including a citation within the text, the following guidelines should be adopted.

- When citing work by a single author, include the author's last name and the year of publication as below:
 - According to Shibata (1978) ...; According to Holmes (2017)...
 - (Shibata, 1978); (Holmes, 2017)
 - Tagliamonte (2012) investigated...; ...was examined (Tsujimura, 2013)
- When citing work by two authors, both names must be included. When citing work by three or more authors, only the first author needs to be given followed by 「ほか」 when writing in Japanese or 'et al.' when writing in English. The names of all authors must be included in the reference list.
 - According to Yasuda & Umino (1977)
 - According to Okamoto & Shibamoto-Smith (2016) ...
 - Okamoto & Shibamoto-Smith (2016) conducted...
- The page number should be given for direct quotations. It is not required for indirect quotations.
 - Yasuda & Umino (1977:35) state that "..."
 - It is said that "...." (Spitzberg & Cupach, 1984:22-23)
- When multiple works are referred to in a single citation, they should be noted in order of year of publication starting with the oldest year of publication.
 -was suggested (Shibata, 1952; Shibuya, 2006; Nakamura, 2014).
- When a translated work is cited, the year of original publication should be followed by the year of translation publication.
 - ...was suggested (Trudgill, 1972/1975)
- When citing from works of second or later editions, the year of reprint publication should be followed by the year of original publication.
 -was pointed out (Tokieda, 2008 [1941])
- When citing different works by the same author published in the same year, add a lower-case letter (a,b,c) to the year of publications in order of entry in the text.
 - Suzuki (1997a) Suzuki (1997b)

4. Reference list

In principle, references should be listed as follows. References should be listed in alphabetical order of the name of the first author, without separating Japanese, European or other foreign language references. However, references in Chinese, Korean or any other non-European languages, may be listed in their language group and arranged in accordance with the custom of that language. References in European or other languages should be listed as they are and do not

need to be translated into Japanese. Multiple references of the same author should be listed in chronological order, from earliest to most recent. When there are both single-authored and co-authored references by the same author, the single-authored reference should be listed first. When there are numerous authors, the reference may be listed under the name of the supervising author.

- (1) Books in Japanese (single author, multiple authors, edited books):
 - Shibata, Takeshi (1978). *Shakai Gengogaku no Kadai*. Tokyo: Sanseido.
 - Yasuda, Saburo, & Umino, Michio (1977). *Shakai Tokeigaku*. 2nd edition. Tokyo: Maruzen.
 - Hashimoto, Yoshiaki (Ed.) (2005). *Koza Shakai Gengo Kagaku 2 Media*. Tokyo: Hitsuji Shobo.
- (2) Papers in books edited in Japanese:
 - Takeuchi, Ikuo (1982). Juyo Katei no Kenkyu. In Takeuchi, Ikuo, & Kojima, Kazuto (Eds.) *Gendai Masukomyunikeshonron*, pp. 44-79. Tokyo: Yuhikaku.
- (3) Periodicals in Japanese:
 - When only the volume or the issue number is given:
 - Haga, Jun (1963). Nihonjin Gakusei no Gakushushita Eigo Meishi no Imi Kozo no Hikaku Kenkyu. *Kyoiku Shinrigaku Kenkyu*, 11, 33-42.
 - When both the volume and issue number are given:
 - Shibuya, Katsumi (2000). Tokugawagaku no Nagare - Hogengaku kara Shakai Gengogaku e -. *Shakai Gengo Kagaku*, 2(2), 2-10.
- (4) Books in European languages (single author, multiple authors, edited books):
 - Norricks, Neal R. (2000). *Conversational narrative: Storytelling in everyday talk*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company.
 - Spitzberg, Brian H., & Cupach, William R. (1984). *Interpersonal communication competence*. Beverly Hills, CA: Sage.
 - Dorian, Nancy C. (Ed.) (1984). *Investigating obsolescence*. Cambridge: Cambridge University Press.
- (5) Papers in books edited in European languages:
 - Atlas, Jay D. (2004). Presupposition. In Horn, Laurence R., & Ward, Gregory (Eds.), *The handbook of pragmatics*, pp. 29-52. Malden, MA: Blackwell.
 - Hymes, Dell (1972). Models of the interaction of language and social life. In Gumperz, John, & Hymes, Dell (Eds.), *Directions in sociolinguistics*, pp. 35-71. New York: Holt, Rinehart & Winston.
- (6) Periodicals in European languages:
 - When only the volume or the issue number is given:
 - Zajonc, Robert B. (1980). Feeling and thinking: Preferences need no inferences. *American Psychologist*, 35, 151-175.
 - When both the volume and issue number are given:
 - Sacks, Harvey, Schegloff, Emanuel, & Jefferson, Gail (1974). A simplest systematic for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 50(4), 696-735.
- (7) Books published in languages other than Japanese (non-European languages):
 - 陈原 (1983). 社会语言学. 学林出版社.
 - 刘月华·潘文娱·故韡 (2001). 实用现代汉语语法. 商务印书馆.
 - 이익섭 (1994). 사회언어학. 민음사.
 - 박경래·곽충구·정인호·한성우·위진 (2012). 재중 동포 언어 실태 조사. 국립국어원.
- (8) Papers in books edited in languages other than Japanese (non-European languages):
 - 孙宏开 (1998). 20世纪的中国少数民族语言文字研究. 刘坚 (主编) 20世纪的中国语言学, pp. 641-682. 北京大学出版社.
 - 정성희 (1998; 2017). 산재지구 조선족의 이중언어사용 실태 —심양시 소가툰구 성광촌의 현황—. 지광철 (編) 규범화, 이중언어연구, pp. 456-461. 민족출판사.
- (9) Periodicals in languages other than Japanese (non-European languages):
 - When only the volume or the issue number is given:

李宇明 (2016). 语言服务与语言产业 东方翻译, 4, 4-8.

김희숙 (2007). 사회언어학과 ‘과잉교정’의 문제. 언어학연구, 11, 49-65.

- When both the volume and issue number are given:

徐大明 (2004). 语言社区理论 中国社会语言学 2(1), 18-28.

아라이 야스히로 (2012). 휴대전화에 있어서의 행위선택의 한일 대조 연구-대우법의 새로운 형태-. 사회언어학, 19(2), 237-259.

- (10) Translated works:

Lave, Jean, & Wenger, Etienne (1991). *Situated learning: Legitimate peripheral participation*. Cambridge: Cambridge University Press. (trans. Saeki, Yutaka (1993). *Jokyo ni Umekomareta Gakushu*. Tokyo: Sangyotosho)

- (11) Conference presentations (papers included in conference collections):

Yamada, Hiroshi (2007). Gammen Hyojo Ninshiki ni Okeru Johoshori Katei. *Shakai Gengo Kagakukai 19 Kai Taikai Happyo Ronbunshu*, pp. 346-349.

- (12) Online references (include date of access in brackets):

Shakai Gengo Kagakukai (2004). Genkoboshu no oshirase. *Shakai Gengo Kagakukai 2004-nen 11-gatsu 8-nichi*.
<<http://www.jass.ne.jp/ed/gakkaishi.html>> (June 20, 2007)

- (13) Doctoral dissertations:

Kita, Sotaro (1993). Language and thought interface: A study of spontaneous gestures and Japanese mimetics. Doctoral dissertation, Department of Psychology and Department of Linguistics, University of Chicago, Chicago, Illinois.

- (14) Other

For any issues not included in this Style Guide, please refer to the latest version of the APA (American Psychological Association) Publication Manual (7th edition, January 2022).

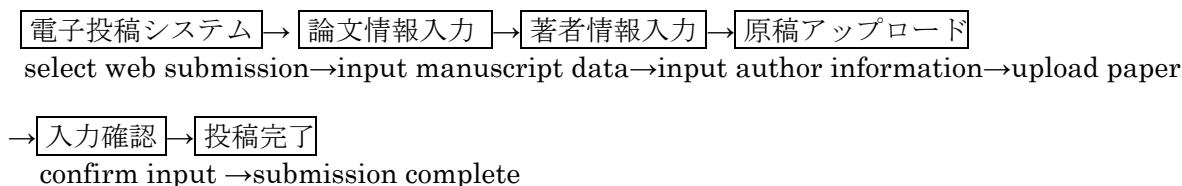
Submission Procedure (Revised and effective April 1, 2022)

1. Submitting a manuscript

- Manuscripts should be submitted using the journal's electronic submission system.
(<https://iap-jp.org/jass/journal/>)

The journal's submission system will move to a new system from April 1, 2022.

- Below is an outline of the web submission flow:



- When the manuscript has been successfully submitted via the electronic submission system, the author will receive an email notification that the manuscript has been successfully submitted. This will include the date of submission and a manuscript submission number.
- For any inquiries regarding the submission of a manuscript, please contact the Journal's editorial office by email.

The Editorial Office,
The Japanese Journal of Language in Society
c/o Kokusai Bunken-sha
332-6 Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0801 Japan
TEL: (+81) 03-6824-9363 FAX: 03-5206-5332
Email: jass-edit@bunken.co.jp

2. Submission procedure

- Authors should prepare the manuscript in accordance with the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or LaTeX file for Japanese). Any reference to the author(s) or the author's affiliation(s) in the main text, notes, references, or acknowledgements should be removed from the manuscript or indicated in a manner that maintains anonymity.
- Manuscripts should be submitted in PDF format via the submission page of the web site. Manuscripts can be converted into PDF format by using the PDF conversion function provided on the web page. If the author creates the PDF prior to login, ensure that any information about the author is removed from the file properties before the file is uploaded.
- The author will be required to input the following information:
 - (1) the title of the paper in English and Japanese;
 - (2) the manuscript type (research paper, research overview, etc.);
 - (3) the submission type (ordinary issue or special issue);
 - (4) the title of the special issue (if applicable); and
 - (5) an abstract in English (no more than 200 words) and Japanese (no more than 600 characters).
- The author will also be required to provide his/her name (in *kanji*, *kana*, and English), affiliation (in *kanji* and English), and membership ID.
- The author must fill in and submit the 'Submission checklist and pledge'. If any part of the manuscript is similar to a paper that one of the contributing authors has submitted or published (or is planning to submit or in the process of submitting) to this or any other association, the author must provide bibliographic information and an explanation of how the content is different via the 'Declaration of similar self-authored paper' section. A copy of the other paper must also be submitted as a PDF file.

3. Peer review and publication schedule

- The manuscript will be reviewed by the editor-in-charge and two referees. The editor-in-charge will summarize these reviews and propose a final decision to the editorial committee. After the committee's confirmation, the author will be notified by email of the decision within three months of receipt of the manuscript. Notification will be in the form of, A (manuscript accepted), B (manuscript accepted after some corrections), C (manuscript to undergo peer review again after corrections), or D (not accepted).
- Depending on the decision, the editor-in-charge may ask a third referee for additional judgment. In that case, the author will also be notified of the process.
- If the result of the review is B or C, the author will need to make the necessary corrections based on comments from the peer review and resubmit the manuscript within the specified time (one month for B or three months for C).
- The Journal is published biannually, in late September and late March. Submissions may be made at any time, however if publication has not been decided at least three months prior to the publication date, publication of the manuscript will be extended to the following edition. The same applies for special editions.

4. Following acceptance

- After a manuscript has been accepted, the author will be requested to prepare the final draft. Except for revisions in response to peer review comments, no additions or deletions may be made to the manuscript. The final manuscript should include the name(s) and affiliation(s) of the author(s) in both Japanese and English, and author-related information that was removed to maintain anonymity. If any acknowledgements are to be included in the manuscript, they should be added after the manuscript has been accepted for publication.
- Both a hard copy and an electronic copy of the final manuscript must be prepared. Please send a hard copy to the postal address of the editorial office (see above), and an electronic copy to the email address of the editorial office <jass-edit@bunken.co.jp>.
- The hard copy of the final manuscript should be the same in form and content as the electronic manuscript. However, figures and tables should be printed out separately from the main text (that is the text including the title, author(s) name(s), abstracts in Japanese and

English, and keywords). The positioning of figures and tables should be clearly indicated in the text of the hard copy.

- Figures and tables should each be on a separate page. They should be numbered consecutively and titled (a brief explanation or caption).
- Clear hard copies of figures and tables need to be supplied as they may be reproduced in publication. The final size of figures and tables will be decided by the editorial committee.
- The electronic copy of the manuscript should be a file using the manuscript template (Word file for Japanese, Word file for English, or LaTeX file for Japanese). Figures and tables may be in either Microsoft Word format or PDF format.
- The author may proofread up to the second proof for corrections. No additions or deletions can be made to the manuscript after the final proof stage.